授業準備:Webclassからコードをダウンロードし、 Google colaboratoryで開いておいてください

演習授業中の質問対応について

Zoom ミーディング			- 0	X X
[*] 演習授業中の質問をチュ 応させていただきます。	∟ーター	の先生が対	<i>≅-71297</i> 991	\mathfrak{C} ×
演習にエラーが出たなど問 題があったらリアクション の 挙手 を押してください。	曹	質問内容を に送信して	入力して、 ください。	「 全員 」宛て
 ✓ Miho Ishimaru ✓ ▲ ● ● ● ✓ ● ● ✓ ● ● ✓ ● ✓	送 … 。 。 の 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	☐ ^ ···· ¥刑	がセージは誰に表示されますか? 宛先: 全具 マ ここにメッセージを入力します ひ ② ① C. マ …	7

1



*本日演習16の授業後に複合領域コースの説明があります

深層学習(乳がんデータの分類)コードまとめ





コード15-6 学習モデルを設計

from keras.models import Sequential

from keras.layers import Dense

kerasは深層学習に特化した便利なライブラリ ← sklearnに代わってこちらを使っていく



- 深層学習ではモデルを作っていく
- 中間層のニューロンが2つ、出力層のニューロンが1つのニューラルネットワークを作る



中間層のニューロンが2つ、出力層のニューロンが1つのニューラルネットワークを作る





model_3.summary()



この7行(5行)でモデルの設計

```
深層学習(乳がんデータの分類)
                                                STEPO:事前準備
                                                STEP1:データの用意
                                                STEP2:学習モデルの選択
STEP2:学習モデルの選択
                                                STEP3:データを入れて学習
                                                STEP4:学習結果の図示
                                                STEP5:モデルの評価
 model 3 = Sequential()
 nodel 3.add(Dense(2, input shape=(3,), activation = 'relu'))
 model 3.add(Dense(1, activation = 'sigmoid'))
 model 3.compile(loss = 'binary crossentropy',
               optimizer = 'Adam',
               metrics = ['accuracy'])
 model 3.summary()
     ● 最初に Sequential クラスでmodel 3インスタンスを作成する
           (*LinearRegressionやRandomForestClassifierなどのモデルと同じ)
     この後ニューラルネットワークを入力層から順番に設計できるようになる
```



*Denseは「全結合」(前のニューロンと後ろのニューロンを全て接続する)







model_3 = Sequential()

model_3.add(Dense(2, input_shape=(3,), activation = 'relu'))

model 3.add(Dense(1, activation = 'sigmoid'))







引数optimizer = では重みとバイアスを更新するアルゴリズムを'Adam'に指定

引数metrics=では、学習過程で表示されるものをaccuracyに指定(後から説明)



● 構築したモデルのまとめが出力される







- これまで通り、(モデル名).fit(x, y)で学習させる
- resultに学習結果を入れる
- 引数batch_size=32で「32組ずつデータを取り出して損失を計算し、重みとバイアスを更新しなさい」という指示

*学習用のデータは398組あり、32組ずつデータを取り出すと13回ですべて取り出せる 全てのデータをひと通り使い尽くすことを1エポックという

cola

● 引数epochs=でエポック数を指定する



例えば訓練データ(問題集)が6000 問あって、1日に600 問解く(バッチサイズ=600)ならば、10日で問題集が1周終わる。 これが1エポック学習した状態である。実際には1周して完璧になるはずがないのと同じく、AIもたくさんのエポック訓練する。

なお、問題集を理解せずに丸暗記してしまい、初見の問題に手も足も出ない状態<mark>(過学習)になってはいけない</mark>というのは 機械学習概論 1 で勉強した通りだ。

オプティマイザー (optimizer)

基本的にこの後出てくる勾配降下法で学習するが、いろいろな細かい改良があり、 学習法のことを optimizer という。よく使われるのは Adam だが、たくさんある。





STEP4:学習結果の図示

コード15-8 学習結果の表示

STEPO:事前準備 STEP1:データの用意 STEP2: 学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:学習結果の図示 STEP5:モデルの評価

result.history

{'loss': [27.132789611816406, 25.30379867553711, 23.575641632080078, 21.91482162475586, 20.267982482910156, ...], 'accuracy': [0.3693467378616333, 0.3693467378616333, 0.3693467378616333, 0.3693467378616333, 0.3693467378616333, ...]}

辞書型で出力 {key:value, key, value,}

{'loss': [1回目の誤差, 2回目の誤差, …, 300回目の誤差], 'accuracy': [1回目の正解率, 2回目の正解率, …, 300回目の正解率]}





STEP4:学習結果の図示

コード15-8 学習結果の表示

STEPO:事前準備 STEP1:データの用意 STEP2: 学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:学習結果の図示 STEP5:モデルの評価

result.history

{'loss': [27.132789611816406, 25.30379867553711, 23.575641632080078, 21.91482162475586, 20.267982482910156, ...], 'accuracy': [0.3693467378616333, 0.3693467378616333, 0.3693467378616333, 0.3693467378616333, 0.3693467378616333, ...]}

result.history['loss']

[27.132789611816406, 25.30379867553711, 23.575641632080078, 21.91482162475586, 20.267982482910156, ...]

(変数名)[key]でvalueを取り出せる



深層学習(乳がんデータの分類)

STEP4:学習結果の図示

コード15-9 学習結果の図示

```
plt.plot(result.history['loss'])
plt.title('loss')
plt.show()
plt.plot(result.history['accuracy'])
plt.title('accuracy')
plt.show()
```



STEPO:事前準備 STEP1:データの用意 STEP2:学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:学習結果の図示 STEP5:モデルの評価

colab

- plt.plot(x,y)で各点をつなぐ線を描ける
- yは結果のloss/accuracyを選択
- xは指定していないとデータ数(300回)
- plt.title()でタイトルをつける
-) plt.show()で図を表示する







30~40回ぐらいでlossが小さくなり、 そのあとはある程度一定

60~70回ぐらいでaccuracyが安定 して、その後も300回まで微増



6/6 [===============] - 0s 5ms/step - loss: 0.4682 - accuracy: 0.8070 0.46817949414253235 0.8070175647735596 正解率は80.7%なのであまり高くない

● (モデル名).evaluate(x,y)でlossとaccuracy(モデルで指定したため)を計算





精度が上がるのか検討するため、作成する学習モデル



二値分類の場合、最後に出る値はY=1になる確率p

STEP1:データの用意

コード15-11 10個の特徴量を抽出する

```
x_train10 = x_train[:, 0:10]
x_test10 = x_test[:, 0:10]
print(x_train10.shape)
print(x_test10.shape)
(398. 10)
```

(398, 10) (171, 10)

- 特徴量を1~10番目 (インデックス番号0~10)の特徴量だけを選択
- (データ名) [行番号,列番号]でnp配列の時は抽出できる

STEPO:事前準備 STEP1:データの用意 STEP2:学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:学習結果の図示 STEP5:モデルの評価

STEP2:学習モデルの選択

コード15-12 学習モデルを設計

model_10.summary()

Model: "sequential_3"

Layer (type)	Output	Shape	Param #
dense_6 (Dense)	(None,	4)	44
dense_7 (Dense)	(None,	4)	20
dense_8 (Dense)	(None,	1)	5

Total params: 69 (276.00 Byte) Trainable params: 69 (276.00 Byte) Non-trainable params: 0 (0.00 Byte)



STEPO:事前準備 STEP1:データの用意 STEP2:学習モデルの選択

STEP3:データを入れて学習 STEP4:学習結果の図示 STEP5:モデルの評価



深層学習(精度上げるための調整) STEPO:事前準備 STEP1:データの用意 STEP2:学習モデルの選択 STEP2:学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:学習結果の図示 STEP5:モデルの評価 model 10 = Sequential() model 10.add(Dense(4, input shape=(10,), activation = 'relu')) model 10.add(Dense(4, activation = 'relu')) model 10.add(Dense(1, activation = 'sigmoid')) model 10.compile(loss = 'binary crossentropy', optimizer = 'Adam', 入力層と中間層2つの設定 metrics = ['accuracy']) model 10.summary() 中間層は2つ 入力する特徴量 は10個にする 3層目(=出力層) 入力層 1 層目 2層目 ニューロン1つ inputは10個 ニューロン4つ ニューロン4つ

STEP2:学習モデルの選択

STEPO:事前準備 STEP1:データの用意 STEP2:学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:学習結果の図示 STEP5:モデルの評価

```
model_10 = Sequential()
```

```
model_10.add(Dense(4, input_shape=(10,), activation = 'relu'))
```

```
model_10.add(Dense(4, activation = 'relu'))
```

```
model_10.add(Dense(1, activation = 'sigmoid'))
```

```
model_10.compile(loss = 'binary_crossentropy',
```

```
optimizer = 'Adam',
```

```
metrics = ['accuracy'])
```

```
model_10.summary()
```

Model: "sequential 3"

Layer (type)	Output Shape	Param #
dense_6 (Dense)	(None, 4)	44
dense_7 (Dense)	(None, 4)	20
dense_8 (Dense)	(None, 1)	5
Total params: 69 (276.) Trainable params: 69 (Non-trainable params:	200 Byte) 276.00 Byte) 2 (0.00 Byte)	

_ 重み:特徴量10個×4ニューロン ━━ =40個 バイアス 4個





● モデルと学習用データを変更し、結果をresult10に入れる



STEP4:学習結果の図示

コード15-14 学習結果の図示

```
plt.plot(result10.history['loss'])
plt.title('loss')
plt.show()
plt.plot(result10.history['accuracy'])
```

```
plt.title('accuracy')
```

```
plt.show()
```



STEPO:事前準備
STEP1:データの用意
STEP2:学習モデルの選択
STEP3:データを入れて学習
STEP4:学習結果の図示
STEP5:モデルの評価

- plt.plot(x,y)で各点をつなぐ線を描ける
- yは結果のloss/accuracyを選択
- xは指定していないとデータ数(300回)
- plt.title()でタイトルをつける
- plt.show()で図を表示する





● (モデル名).evaluate(x,y)でlossとaccuracy(モデルで指定したため)を計算

cola

演習16 課題

Webclassで課題を提出してください。締め切りは2024/02/14 23:59まで

breast_cancerデータのデータセットで特徴量を1~20個目(インデックス番号 0~19)の特徴量データ(x_train20, x_test20)で深層学習を行なってください

1)作成したx_train20, x_test20の配列の形状を回答してください 2)中間層1つ目を5つのニューロン(ノード)、中間層2つ目を3つのニューロン (ノード)としてモデルを作成し、(モデル名).summary()の結果の図を提出してく ださい

3)epoch数200で学習し、学習過程のaccuracyの結果の折れ線グラフを提出して ください(バッチサイズは好きなサイズでいいです) 4)x test20とy testでの正解率を回答してください(0~1)
授業準備:Webclassからコードをダウンロードし、 Google colaboratoryで開いておいてください

演習授業中の質問対応について



医療とAI・ビッグデータ入門 演習17

汀	22		22
沐	間	子	İ

●今までは教師あり機械学習の基礎を実行してきた

●演習15-20では深層学習を実行する

15-16で深層学習の基礎と乳がんデータの分類
17-19で画像の分類を深層学習で行う
20 機械学習・深層学習の演習

医療分野のAIとして、画像診断支援が非常に重要なトピック 今回から3回で肺のレントゲン画像を用いて、covid19肺炎かど うかを分類する深層学習を行う







深層学習のコードの流れ



ニューラルネットワークとは



○が全てニューロン、繋がった線の数だけ数式(関数)が存在する。

ニューラルネットワークとは



①一定量のデータの予測結果を算出する

②正解と予測結果がどれくらい異なっているかという誤差を計算する ③誤差が小さくなるように重みとバイアスを変える

を何度も繰り返すことで、誤差を減らしていき精度を高める













画像データは何が特徴量(説明変数)なのか

デジタル画像は数字で置き換えることが可能



白黒の濃さを0~255で表示

28×28のマス(ピクセルと言います)に色の濃さの数字を当てはめて画像になっている。

入力層には各マスの色情報の数値(=変数)を入力する





画像を使って深層学習を行う



STEPO:事前準備 STEP1:データの用意 STEP2:学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:学習結果の図示 STEP5:モデルの評価

今回から画像データを使うため、webclassから画像ファイル (image_TMDU.zip)をダウンロードしてください。

ダウンロードしたzipファイルを展開(解凍)せずに、そのまま自分の Google Driveにアップロードしてください。

STEP0:画像データのアップロード

STEPO:事前準備 STEP1:データの用意 STEP2:学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:学習結果の図示 STEP5:モデルの評価

①GoogleのブラウザもしくはGmailなどの自分の アカウント画面からGoogle Driveへ移動します

gleについて ストア				Gmail	
			殺踞	G	Q
			アカウント	検索	マップ
					6
	Googla		YouTube	Play	ニュース
	Google		M		1 1 1
	_		Gmail	Meet	チャット
	٩	0			31
	Google 検索 I'm Feeling Lucky		連絡先	ドライブ	カレンダー
	ファミリー リンクを使って、ご家族でインターネットをより安全に利用しましょ	ō	G.		<u> </u>

②Google Driveのマイドライブの中に<u>zipファイルのままアップロード(</u>ドラッ グアンドドロップ)して下さい

	人 ドライブ	Q ドライブで検索	莘			0 🏟 🏭	穀類
	十 新規	マイドライブ・				≂ ⊞ (j)	31
	 ・ 〇 マイドライブ 	(種類 ▼) (ユーザー ▼) (最終更新 ▼)					
	・ <u>「</u> パソコン ※ #有アイテム	名前 ↓	オーナー	最終更新 ▼	ファイルサイ	:	0
	③ 最近使用したアイテム	predictbyv8for1000	😕 自分	2023/07/03 自分	-	:	•
	☆ スター付き① スパム	lod_files	🕒 自分	2023/06/28 自分	_	:	
images_TMDU.zip	 □ ゴミ箱 ○ 保存容量 	Colaboratory	🕒 自分	2020/11/02 自分	_	:	+
		Colab Notebooks	🕒 自分	2023/06/30 自分	-	:	
	100 GB 中 47.24 GB を使用 保存容量を増やす	2023	🕒 自分	2023/06/28 自分	-	:	
		ipynb_checkpoints	🕒 自分	2023/06/28 自分	-	:	
		workshop_TMDUver2.zip	🕒 自分	7:15 自分	57.6 MB	:	
		E testlabel.txt	🕒 自分	2023/06/28 自分	2 KB	:	
		etestlabel_t.txt	🕒 自分	2023/07/06 自分	2 KB	:	
		test.jpg	🕒 自分	2023/06/28 自分	433 KB	:	
		E test.csv	🕒 自分	2023/07/13 自分	71 パイト	:	
		test_t.jpg	🕒 自分	2023/07/06 自分	811 KB		
		scikit-learn_test.ipynb	🕒 自分	2023/07/12 自分	3.5 MB		
		≡ images TMDILzin		7:25 自分	54.2 MB	:	>



STEP0: Google Colaboratoryの立ち上げ

STEPO:事前準備 STEP1:データの用意 STEP2:学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:学習結果の図示 STEP5:モデルの評価

Python基礎 プログラミング基礎

検索google colab Colaboratory へようこそ - Colaboratory - Google

	Colaboratory へようこそ	
	ファイル 編集 表示 挿入 ランタイム ツール	、 へいブ
	ノートブックを新規作成	
	ノートブックを開く Ctrl+(演音1/コート.ipynb
	ノートブックをアップロード	lab へようこそ
{ <i>x</i> }		に Colab をよくご存じの場合は、この動画でインタラクティブなラ
••• ••	ドライブにコピーを保存 コピーを GitHub Gist として保存	ドの履歴表示、コマンドパレットについてご覧ください。
	GitHub にコピーを保存	Colab Features
	保存 Ctri+: 实现履行	
	ダウンロード	
	ED刷 Ctrl+I	10
	C	olabとは





コード17-1 Google Driveのマウント

drive.mount('/content/drive', force remount=True)

上のコードを実行すると下の画面が出てくるので、「Googleドライブに接続」をクリック

深層学習(画像の分類) STEP0:Google Driveのマウント



最初に別の確認画面が表示された場合





STEP0:Google Driveのマウント

STEP0:事前準備 STEP1:データの用意 STEP2:学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:学習結果の図示 STEP5:モデルの評価

Driveをマウントするとアイコンが、が入る



STEP0:Google Driveのマウント

STEP0:事前準備
STEP1:データの用意
STEP2:学習モデルの選択
STEP3:データを入れて学習
STEP4:学習結果の図示
STEP5:モデルの評価

images_TMDU.zipがgoogle driveにアップロードがされているかを確認



STEP0:ライブラリのインポート

STEPO:事前準備 STEP1:データの用意 STEP2:学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:学習結果の図示 STEP5:モデルの評価

コード17-2 zipファイルを解凍する

!unzip '/content/drive/MyDrive/images_TMDU.zip'

Archive: /content/drive/MyDrive/images_TMDU.zip creating: images/ inflating: images/.DS_Store inflating: __MACOSX/images/._DS_Store creating: images/COVID-NORMAL/ inflating: __MACOSX/images/._COVID-NORMAL inflating: images/test.jpg inflating: __MACOSX/images/._test.jpg inflating: images/covid.jpg

2回目以降に実行した場合↓

Archive: /content/drive/MyDrive/images_TMDU.zip replace images/.DS_Store? [y]es, [n]o, [A]II, [N]one, [r]ename: N

ここにNを入れてEnter

<u>!unzip 'zipファイル名' で指定したファイルを解凍する</u>

- セルの先頭に「!」をつけると、pythonではなくシェルというコマンドを実行できる
- zipファイルにはファイル名だけでなく、ファイルの場所(パス path)も指定する必要があるので、

「'/content/drive/MyDrive/images_TMDU.zip'」となる

*images_TMDU.zipをMy driveではないフォルダにアップしている人はパスが異なる6

STEP0:ライブラリのインポート

深層学習(画像の分類)



27



正常に動作すると、「images」フォルダの中 に「COVID-NORMAL」というフォルダと 3つのjpgファイル(「NORMAL.jpg」, 「covid.jpg」,「test.jpg」)が入っている ことが確認できる

zipファイルを入れている場所が間違えているな ど、エラーが起こる人がいるかもしれないので、 左のが確認できない人は教えてください ここができないとこの後3回の演習できないので、 必ず解決してください。



STEP0:ライブラリのインポート

STEPO:事前準備 STEP1:データの用意 STEP2:学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:学習結果の図示 STEP5:モデルの評価

コード17-3 利用するモジュールのインポート

import matplotlib.pyplot as plt

from keras.preprocessing.image import load_img, img_to_array

関数をインポート:from keras.preprocessing.image import load_img ライブラリ モジュール モジュール ^{img_to_array}





- load_img(ファイル名, color_mode =)で画像 を読み込む
- color_mode = 'rgb'はRed, Green, Blueの
 ことでカラーで読み込む 白黒は'grayscale'

● plt.imshow(test): 画像を表示

Print(test): 画像データの情報を表示

画像を読み込んで表示する



最後の行「image mode=RGB size=3264x2448」は、色の形式が RGBで表現されていて、画像のサイズが **横3264ピクセル、縦2448ピクセル**とい うことを示している







- target_size=で画像ファイルを読み込むときの ピクセル数(サイズ)を指定します
- color_mode ='grayscale'で白黒で読み込む
- plt.imshow()の2つ目の引数に'gray'を指定



画像を荒くして白黒で表示する

10×10の白黒で読み込む 表示結果がモザイクの様になる



<PIL.Image.Image image mode=L size=10x10 at 0x7F771A6C2110>

50×50の 白黒で読み込むと↓

100×100の 白黒で読み込むと↓





STEP0:ライブラリのインポート

STEPO:事前準備 STEP1:データの用意 STEP2:学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:学習結果の図示 STEP5:モデルの評価

コード17-6 画像データを配列データに変換

<pre>test2_img = img_to_array(test2)</pre>	
<pre>print(test2_img.shape)</pre>	
<pre>print(test2_img)</pre>	<mark>(10,10,1)</mark> [[[114.]
● img_to_array()は画像データを配列に変換する	[111.] [107.] [107.]
● 配列構造は (10,10,1)の三次元配列	[107.] [104.]
(横ピクセル数 / 縦ピクセル数 / 色数)の配列構造	[104.] [104.]
● print(test2 img)で、数字の羅列が表示される	[107.] [111.]]





34

それぞれに色のレベル(輝度)を0から255の大きさで表した数値が割り当てられる



test2_img [[114][111][107][107][107][104][104][104][104][107][111]][[128.][121.][121.][121.][118.][118.][118.][118.][121.][125.]][[139.][244.][74.] [132.][230.][159.][135.][82.] [83.] [135.]] [[153.][243.][45.] [95.] [53.] [170.][20.] [179.] [63.] [163.]] [[161.][243.] [56.] [47.] [42.] [137.][125.] [71.] [102.][157.]] [[195.][240.][225.] [51.] [160.][149.][185.][110.][101.][174.]] [[149.][125.][182.] [7.] [102.][194.][158.][143.][176.][225.]][[122.][141.] [87.] [174.] [149.] [46.] [95.] [145.] [202.] [30.]] [[47.][121.][193.][60.][143.] [55.][127.][168.][165.][60.]] [[103.][142.][137.][122.][71.] [18.] [67.][219.][169.] [16.]]]

test2











● target_size=で画像ファイルを読み込むときの ピクセル数(サイズ)を指定します




● 1番内側の大括弧内の3つの数字は<u>色</u>を表し、red
 (R)、green(G)、blue(B)の3つの色のレベル
 (輝度)をそれぞれ0から255の値で表現している

STEPO:事前準備 STEP1:データの用意 STEP2:学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:学習結果の図示 STEP5:モデルの評価

]]]	79.	116.	197.]
[76.	113.	194.]
[71.	109.	190.]
[65.	112.	190.]
]	65.	112.	190.]
]	62.	109.	187.]
]	62.	109.	187.]
]	62.	109.	187.]
]	65.	112.	190.]
]	76.	113.	194.]]
	•		

(10, 10, 3)





コンピュータで画像を扱う際の標準的な色の表現方法の一つ Red, Green, Blueの数値(0~255)の組み合わせで表現する



10 × 10 × 3 (3色)

[[79.116.197.]	[76.113.194.]	[71.109.190.]	[65.112.190.]	[65.112.190.]	[62. 109. 187.]	[62.109.187.]	[62.109.187.]	[65.112.190.]	[76.113.194.]]
[[86. 133. 213.]	[86.123.204.]	[79.126.204.]	[79.126.204.]	[70.126.201.]	[75.124.201.]	[76.123.201.]	[76.122.208.]	[79.125.211.]	[83.130.208.]]
[[97.144.222.]	[248.245.226.]	[54.80.97.]	[84.140.215.]	[248.227.200.]	[201. 146. 115.]	[87.143.218.]	[106.76.52.]	[83.83.83.]	[93. 140. 218.]]
[111. 158. 236.]	[255.243.214.]	[27.50.68.]	[119.87.72.]	[53.53.53.]	[201. 162. 131.]	[26.19.13.]	[210. 171. 138.]	[69.62.56.]	[192. 154. 133.]
[144. 163. 196.]	[255.243.214.]	[46.60.61.]	[53.44.47.]	[42.42.42]	[155. 138. 84.]	[149.120.88.]	[88.72.20.]	[108. 106. 65.]	[181.151.127.]]
[[160.203.248.]	[253.241.203.]	[236.220.223.]	[51.54.37.]	[173.166.94.]	[162. 157. 75.]	[198. 191. 1 19.]	[123.116.46.]	[114.101.67.]	[184. 175. 144.]]
[138. 150. 172.]	[149.119.95.]	[213. 174. 143.]	[10.6.0.]	[115.109.35.]	[212. 197. 128.]	[171.162.105.]	[164.143.88.]	[194. 178. 119.]	[219.229.218.]]
[[135.121.92.]	[154. 142. 104.]	[105.90.23.]	[187. 181. 103.]	[162.156.80.]	[58.49.0.]	[101.101.51.]	[158.150.87.]	[215.202.168.]	[23.34.30.]]
[[48.51.22.]	[127.123.98.]	[211. 196. 129.]	[72.65.0.]	[161.149.65.]	[61.61.7.]	[141.130.74.]	[181. 173. 108.]	[171. 165. 151.]	[60.59.65.]]
[[109.102.96.]	[135. 150. 119.]	[155. 139. 77.]	[135. 121.92.]	[71.74.57.]	[24.19.0.]	[80.69.23.]	[232.218.189.]	[175. 169. 155.]	[16.16.16.]]]





STEPO:事前準備

10×10×3(3色)

[79. 116. 197.]	[76.113.194.]	[71.109.190.]	[65.112.190.]	[65.112.190.]	[62. 109. 187.]	[62.109.187.]	[62.109.187.]	[65.112.190.]	[76.113.194.]]
[[86. 133. 213.]	[86.123.204.]	[79.126.204.]	[79.126.204.]	[70.126.201.]	[75.124.201.]	[76.123.201.]	[76.122.208.]	[79.125.211.]	[83.130.208.]]
[[97.144.222.]	[248.245.226.]	[54.80.97.]	[84.140.215.]	[248.227.200.]	[201. 146. 115.]	[87.143.218.]	[106.76.52.]	[83.83.83.]	[93. 140. 218.]]
[111. 158. 236.]	[255.243.214.]	[27.50.68.]	[119.87.72.]	[53.53.53.]	[201. 162. 131.]	[26. 19. 13.]	[210. 171. 138.]	[69.62.56.]	[192. 154. 133.]
[144. 163. 196.]	[255.243.214.]	[46.60.61.]	[53.44.47.]	[42.42.42]	[155. 138. 84.]	[149.120.88.]	[88.72.20.]	[108. 106. 65.]	[181. 151. 127.]]
[160.203.248]	[253.241.203.]	[236.220.223.]	[51.54.37.]	[173.166.94.]	[162. 157. 75.]	[198. 191. 1 19.]	[123.116.46.]	[114.101.67.]	[184. 175. 144.]]
[138. 150. 172.]	[149.119.95.]	[213. 174. 143.]	[10.6.0.]	[115.109.35.]	[212. 197. 128.]	[171. 162. 105.]	[164. 143. 88.]	[194. 178. 119.]	[219.229.218.]]
[[135.121.92.]	[154. 142. 104.]	[105.90.23.]	[187. 181. 103.]	[162.156.80.]	[58.49.0.]	[101.101.51.]	[158. 150. 87.]	[215.202.168.]	[23.34.30.]]
[[48.51.22.]	[127.123.98.]	[211.196.129.]	[72.65.0.]	[161.149.65.]	[61.61.7.]	[141.130.74.]	[181. 173. 108.]	[171. 165. 151.]	[60.59.65.]]
[[109. 102. 96.]	[135. 150. 119.]	[155. 139. 77.]	[135.121.92.]	[71.74.57.]	[24.19.0.]	[80.69.23.]	[232.218.189.]	[175. 169. 155.]	[16.16.16.]]]

print(test3_img[0])

print(test3_img[0][0])

print(test3_img[0][0][0])

画像を複数読み込んだ場合は?

画像を4枚読み込んだ時は (4, 10, 10, 1)の4次元配列になる



[[[[114.]	[[[114.]	[[[224.]	[[[224.]
[111.]	[111.]	[169.]	[169.]
[107.]	[107.]	[48.]	[48.]
[107.]	[107.]	[55.]	[55.]
[107.]	[107.]	[50.]	[50.]
[104.]	[104.]	[82.]	[82.]
[104.]	[104.]	[98.]	[98.]
[104.]	[104.]	[186.]	[186.]
[107.]	[107.]	[207.]	[207.]
[111.]]	[111.]]	[214.]]	[214.]]
222.]]]	[222.]]]	[222.]]]	[222.]]]]

画像を複数読み込んだ配列は(枚数、横のセル、縦のセル、色の数)になる

演習17:課題

Webclassで課題を提出してください。締め切りは2024/02/15 23:59まで

img_TMDU.zipに入っているkadai.jpegの画像データを読み込んで、配列を確認して ください。

- load_img()の引数でcolor_modeはカラー(rgb) 、target_sizeは30×30ピクセルに 指定してください。
- あなたの学生番号の下一桁の番号の行と列のRGBの値を入力してください。 (0001なら1なので、読み込んだ画像データの配列の1行目1列目(インデックス番号が1) のデータのRGBの値を入力する)

医療とAI・ビッグデータ入門 演習18

深層学習(画像データ)

深層学習のコードの流れ



肺のレントゲン画像で深層学習を行いCovid19肺炎かどうかを予測する



深層学習 (画像の分類)



Covid19肺炎





<u>(復習) ニューラルネットワークとは</u>



	体 重	年 齢	血圧	正 解	予測
1	55	28	140	1	0.6
2	48	44	130	0	0.3
3	77	64	145	0	0.4
4	49	42	130	1	0.9
5	59	66	128	1	0.6



48

それぞれに色のレベル(輝度)を0から255の大きさで表した数値が割り当てられる



[[[114.][111.][107.][107.][107.][104.][104.][104.][104.][107.][111.]][[128], [121], [121], [121], [118], [118], [118], [118], [121], [125]][[139.][244.][74.] [132.][230.][159.][135.][82.] [83.] [135.]] [[153.][243.][45.] [95.] [53.] [170.][20.] [179.] [63.] [163.]] [[161.][243.] [56.] [47.] [42.] [137.][125.] [71.] [102.][157.]] [[195.][240.][225.] [51.] [160.][149.][185.][110.][101.][174.]] [[149.][125.][182.] [7.] [102.][194.][158.][143.][176.][225.]][[122.][141.] [87.][174.][149.] [46.] [95.][145.][202.] [30.]] [[47.][121.][193.][60.][143.] [55.][127.][168.][165.][60.]][[103.][142.][137.][122.][71.][18.][67.][219.][169.][16.]]]

画像データを配列データに変換

特徴量として予測を行う

画像データのそれぞれのピクセルの輝度を





test2

2

4

6

8



[[139,][244,][74,] [132,][230,][159,][135,][82,] [83,] [135,]] [[153,][243,][45,] [95,] [53,] [170,][20,] [179,] [63,] [163,]]

[[161.][243] [56] [47] [42] [137.][125] [71.][102][157.]] [[195.][240][225.] [51.][160.][149.][185.][110.][101.][174.]] [[149.][125.][182] [7] [102.][194.][158.][143.][176.][225.]]

[[122][141] [87][174][149] [46] [95][145][202][30]] [[47][121][193][60][143] [55][127][168][165][60]] [[103][142][137][122][71] [18] [67][219][169][16]]]



深層学習 (画像の分類)

今回は画像を 64×64 = 4096ピク セルで読み込む



入力層には各マスの色情報の数値(=変数)を入力する



画像データにおける特徴量



各ピクセルの色を変換した値が特徴量になる

配布したCOVID-NORMALの中身の構成



深層学習 (画像の分類) のコードまとめ

- STEP1 データの用意と前処理
 - STEP2 学習モデルの選択

(モデル名) = Sequential() < (モデル名).addで自分で設計する

モデルはSequential()と

- STEP3 データを入れて学習させる (モデル名).fit()
- STEP4 学習結果の図示
- STEP5 モデルの評価
- STEP6 予測 (モデル名).predict()

深層学習 (画像の分類) のコードまとめ

STFP1-1 STEP1 データの用意と前処理 画像ファイル名を取得 STEP1-2 STEP2 学習モデルの選択 (232,64,64,1)の配列をあらかじめ作成 (モデル名) = Sequential() STEP1-3 画像ファイルの読み込みと配列への代入 STEP3 データを入れて学習させる STEP1-4 x train(特徴量)とy train(正解)を作成 (モデル名).fit() 学習結果の図示 STEP4 STEP5 モデルの評価 STEP6 予測 (モデル名).predict()

深層学習 (画像の分類)

前処理の手順

STEP1-1 画像ファイル名を取得

- ●HealthyとCovid19のフォルダからファイル名を取得して配列にして変数に代入
- ●画像ファイル数が116枚ずつ(HealthyとCovid19)で計232枚であることの確認

STEP1-2 (232,64,64,1)の配列をあらかじめ作成

●中身が0の配列を作成する(232枚画像データを64×64の白黒で読み込むため)

STEP1-3 画像ファイルの読み込みと配列への代入

● 画像ファイルを順に読み込みSTEP1-2で作成した配列に代入(Covid19=1, Healthy=0)

STEP1-4 x train(特徴量)とy train(正解)を作成

- STEP1-3の配列をランダムにシャッフルして、x_train(特徴量データ)とy_train(正解デー 夕)を作成
- x_trainは(232,64,64,1)、y_trainは(232,1)の配列構造をとる



STEP0: Google Colaboratoryの立ち上げ

STEPO:事前準備
STEP1:データの用意と前処理
STEP2:学習モデルの選択
STEP3:データを入れて学習
STEP4:学習結果の図示
STEP5:モデルの評価
STEP6:予測

Python基礎 プログラミング基礎

検索google colab <u>Colaboratory へようこそ - Colaboratory - Google</u>

	Colaboratory へようこそ ファイル 編集 表示 挿入 ランタイム	ツール ヘルプ	
(x) = =	 ノートブックを新規作成 ノートブックを開く ノートブックをPップロード 名前の変更 ドライブにコピーを保存 コピーを GitHub Gist として保存 	ド + テキスト ▲ ドライブにコピー Ctri+0 演習18コード.ipynb Iab へようこそ Ic Colab をよくご存じの場合は、この動画でインタラクティブなう ドの履歴表示、コマンドパレットについてご覧ください。 3 Cool Google	
	GitHubにコピーを保存 保存 変更履歴 ダウンロード 印刷	Ctrl+s Ctrl+P	
		Colabとは	

検索google colab <u>Colaboratory へようこそ - Colaboratory - Google</u>

ノートブックを開く





STEPO:ライブラリのインポート

STEPO:事前準備 STEP1:データの用意と前処理 STEP2: 学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:学習結果の図示 STEP5:モデルの評価 STEP6:予測

コード18-1 ライブラリ・モジュール・関数のインポート

import numpy as np import os import matplotlib.pyplot as plt from keras.preprocessing.image import load img, img to array from keras.models import Sequential from keras.layers import Dense, Flatten, Dropout





画像で深層学習を行うときにkerasの関数、クラスを使うのでインポートする

関数をインポート from <u>keras</u>.preprocessing.image import <u>load img</u> ライブラリ モジュール モジュール 関数



深層学習 (画像の分類) 画像データを深層学習に利用するには、データの前処理が必要 **STEP1-1** 画像ファイル名を取得 **STEP1-2** (232,64,64,1)の配列をあらかじめ作成 **STEP1-3** 画像ファイルの読み込みと配列への代入 STEP1-4 x train(特徴量)とy train(正解)を作成



深層学習 (画像の分類)

前処理の手順

STEP1-1 画像ファイル名を取得

- ●HealthyとCovid19のフォルダからファイル名を取得して配列にして変数に代入
- ●画像ファイル数が116枚ずつ(HealthyとCovid19)で計232枚であることの確認

STEP1-2 (232,64,64,1)の配列をあらかじめ作成

●中身が0の配列を作成する(232枚画像データを64×64の白黒で読み込むため)

STEP1-3 画像ファイルの読み込みと配列への代入

● 画像ファイルを順に読み込みSTEP1-2で作成した配列に代入(Covid19=1, Healthy=0)

STEP1-4 x train(特徴量)とy train(正解)を作成

- STEP1-3の配列をランダムにシャッフルして、x_train(特徴量データ)とy_train(正解デー 夕)を作成
- x_trainは(232,64,64,1)、y_trainは(232,1)の配列構造をとる



STEP1-1 画像ファイル名を取得

演習17で行っている人はやらなくて良い コード18-2 zipファイルを解凍する

STEPO:事前準備
STEP1:データの用意と前処理
STEP2:学習モデルの選択
STEP3:データを入れて学習
STEP4:学習結果の図示
STEP5:モデルの評価
STEP6:予測

#!unzip '/content/drive/MyDrive/images_TMDU.zip'

Archive: /content/drive/MyDrive/images_TMDU.zip creating: images/ inflating: images/.DS_Store inflating: __MACOSX/images/._.DS_Store creating: images/COVID-NORMAL/ inflating: __MACOSX/images/._COVID-NORMAL inflating: images/test.jpg inflating: __MACOSX/images/._test.jpg inflating: images/covid.jpg

<u>!unzip 'zipファイル名' で指定したファイルを解凍する</u>

 zipファイルにはファイル名だけでなく、ファイルの場所(パス; path)も指定する必要 があるので、「'/content/drive/MyDrive/images_TMDU.zip'」となる
 *images_TMDU.zipをMy driveではないフォルダにアップしている人はパスが異などと



STEP1-1 画像ファイル名を取得





正常に動作すると、「images」フォルダの中 に「COVID-NORMAL」というフォルダと 3つのjpgファイル(「NORMAL.jpg」, 「covid.jpg」,「test.jpg」)が入っている ことが確認できる



コード18-3 ファイル名のリストを作成

list_healthy = [i for i in os.listdir('/content/images/COVID-

NORMAL/healthy') if not i.startswith('.')]

list_covid19 = [i for i in os.listdir('/content/images/COVID-

NORMAL/covid19') if not i.startswith('.')]



C



[i for i in range(5)]で0から4までの数字のデータを順にiに代入し て[0,1,2,3,4]というリストを作成



- tempというリストから、リスト内包表記[i×2 for i in temp]でexample2作成
- 「tempを順にiに代入してi×2のリストを作成せよ」という指示
- tempが[1,3,5,7,9]なので順に1×2、3×2、5×2、7×2、9×2が要素のリストが作ら れる



- if i > 4 で 「iが4より大きい時」と条件指定
- 「iが4より大きい時、tempを順にiに代入してi×2のリストを作成せよ」という指示
- tempが[1,3,5,7,9]で4より大きい[5,7,9]で順に5×2、7×2、9×2が要素のリスト が作られる





- if name.startswith('佐')で、「文字列が'佐'から始まる時」という意味
- 「nameの文字列が'佐'から始まる時、temp2を順にnameに代入してリストを作成せよ」という指示










前処理の手順

STEP1-1 画像ファイル名を取得

●HealthyとCovid19のフォルダからファイル名を取得して配列にして変数に代入

● <u>画像ファイル数が116枚ずつ(HealthyとCovid19)で計232枚であることの確認</u>

STEP1-2 (232,64,64,1)の配列をあらかじめ作成

●中身が0の配列を作成する (232枚画像データを64×64の白黒で読み込むため)

STEP1-3 画像ファイルの読み込みと配列への代入

● 画像ファイルを順に読み込みSTEP1-2で作成した配列に代入(Covid19=1, Healthy=0)

STEP1-4 x_train(特徴量)とy_train(正解)を作成

 ● STEP1-3の配列をランダムにシャッフルして、x_train(特徴量データ)とy_train(正解デー タ)を作成

● x_trainは(232,64,64,1)、y_trainは(232,1)の配列構造をとる



STEP1-1 画像ファイル名を取得

コード18-8 ファイル名リストの要素数確認

```
print(len(list_healthy))
```

```
print(len(list covid19))
```

```
116
116
```

● len() 関数で要素の数を取得

116のファイル名があるということ →画像ファイル116個ずつ



STEP0:事前準備 STEP1:データの用意と前処理 STEP2:学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:学習結果の図示 STEP5:モデルの評価 STEP6:予測





- num_healthyとnum_covid19はそれぞれlist_healthyと list_covid19に含まれる画像ファイル名の数
- num_allに合計値(それぞれ116であるため合計232になる)
 を代入する



前処理の手順

STEP1-1 画像ファイル名を取得

- ●HealthyとCovid19のフォルダからファイル名を取得して配列にして変数に代入
- ●画像ファイル数が116枚ずつ(HealthyとCovid19)で計232枚であることの確認

STEP1-2 (232,64,64,1)の配列をあらかじめ作成

●中身が0の配列を作成する (232枚画像データを64×64の白黒で読み込むため)

STEP1-3 画像ファイルの読み込みと配列への代入

● 画像ファイルを順に読み込みSTEP1-2で作成した配列に代入(Covid19=1, Healthy=0)

STEP1-4 x train(特徴量)とy train(正解)を作成

● STEP1-3の配列をランダムにシャッフルして、x_train(特徴量データ)とy_train(正解デー タ)を作成

● x_trainは(232,64,64,1)、y_trainは(232,1)の配列構造をとる



(232, 1)

np.zeros(): 括弧の中に配列の形状を指定して、要素0からなる配列を作る関数
 1つ目の引数で作成する配列を指定
 2つ目の引数でデータタイプを指定する (float: 浮動小数[この後正規化するため]、int: 整数)

● image_tempは(232,64,64,1)、labels_tempは(232,1)という配列構造を作成



前処理の手順

STEP1-1 画像ファイル名を取得

- ●HealthyとCovid19のフォルダからファイル名を取得して配列にして変数に代入
- ●画像ファイル数が116枚ずつ(HealthyとCovid19)で計232枚であることの確認

STEP1-2 (232,64,64,1)の配列をあらかじめ作成

●中身が0の配列を作成する(232枚画像データを64×64の白黒で読み込むため)

STEP1-3 画像ファイルの読み込みと配列への代入

● 画像ファイルを順に読み込みSTEP1-2で作成した配列に代入(Covid19=1, Healthy=0)

STEP1-4 x_train(特徴量)とy_train(正解)を作成

● STEP1-3の配列をランダムにシャッフルして、x_train(特徴量データ)とy_train(正解デー タ)を作成

● x_trainは(232,64,64,1)、y_trainは(232,1)の配列構造をとる









健康な肺のX線画像(Healthy)を読み込む

0~115 (num_healthyが116なので)までを順にiという変数に代入して forの処理内容を実行

■ 3~6行目に書かれた内容を116回繰り返す



文字列として扱うための「''」の中に変数名を入れて、変数として認識させるためには、 3行目のように「''」の前にfを入れて、変数を「{ }」で囲う必要があります。

colab

i=0**の時:**file = /content/images/COVID-NORMAL/healthy/ DX.1.2.840.113564.1722810162.20200403113227763540.1203801020003.jgg



(232, 64, 64, 1)の配列をあらかじめ作って画像データの配列を代入していく

	imagaa tamp[0] imagaa			imagas tomp[22]]		
	Images_temp[U] Images_t		temp[1]	images_temp[231]		
images_temp	[[[[0][0][0]] [[0][0][0]]	[[[0][0]. [[0][0].	[0]] [0]] 	[[[0][0][0]] [[0][0][0]]		
(232, 04, 04, 1)	 [[0][0][0]]]	 [[0][0].	[0]]]	 [[0][0][0]]]]		
	labels_temp[0]	els_temp[0] labels_temp[1]		labels_temp[231]		
labels_temp (232, 1)	[[0]	[0]		[0]]		
232	画像を読み込み配列に	変換	images_temp[で画像の配列デ-	[0] = file_array -夕をimages_tempにf	ቲአ	
	[[[202][103][10 [[56][46][156]]		[[[0][0][0]] [[0][0][0]]	[[[202][103][1 [[56][46][156]	0]]]]	
	[[5][26][234]]]		 [[0][0][0]]]	 [[5][26][234]]]	
0から231まで	file_array (64,64,1)		images_temp[0]			

```
STEPO:事前準備
深層学習 (画像の分類)
                                                     STEP1:データの用意と前処理
                                                     STEP2: 学習モデルの選択
STEP1-3 画像ファイルの読み込みと配列への代入
                                                     STEP3:データを入れて学習
                                                     STEP4:学習結果の図示
                                                     STEP5:モデルの評価
コード18-14 images_tempの変換後の値
                                                     STEP6:予測
    images temp[0]
            array([[[0.01960784],
                   [0.02745098],
                   [0.03137255],
                   . . . ,
                   [0.10588235],
                   [0.06666667],
                   [0.01960784]],
                  [[0.0627451],
                   [0.10196079],
                   [0.17254902],
                   [0.23529412],
                                                                 colab
                   [0.19607843],
                   [0.23529412]])
```







Covid19肺炎の画像(covid19)を読み込む

沫眉子百(凹1家の刀類) STEF	STEPO:事前準備 STEP1:データの用意と前処理 STEP2:学習モデルの選択	
STEP1-3 画像ファイルの読み込みと配列への代入 STEP	FZ:手首CFルの選択 P3:データを入れて学習 P4:学習結果の図示	
<pre>for i in range(num_covid19): file = f'{path}/covid19/{list_covid19[i]}' file_img = load_img(file, color_mode='grayscale',</pre>	P5:モデルの評価 P6:予測 ion='lanczos') /255	

0~115 (num_covidが116なので) までを順にiという変数に代入してfor の処理内容を実行

2~6行目に書かれた内容を116回繰り返す





healthyではimages_temp[0]からimages_temp[115]までの配列を置き換えた covid19ではimages_temp[116]からimages_temp[231] の116枚分の配列データ を置き換えるので、image_tempのインデックス番号は<u>「i + num_healthy」</u>



ラベル(正解値:健康な肺のx線画像を0、Covid19の肺炎のx線画像を1とする)を作成する

- labels_tempは全て0の要素からなる (232,1) 形状の配列
- healthyの方は最初から0が入っている
- covid19の方はlabels_temp[i + num_healthy] = 1で、labels_temp[116]か
 らlabel_temp[231]までの0を全て1に置き換える
 96



<u>101ab</u> 97

前処理の手順

STEP1-1 画像ファイル名を取得

- ●HealthyとCovid19のフォルダからファイル名を取得して配列にして変数に代入
- ●画像ファイル数が116枚ずつ(HealthyとCovid19)で計232枚であることの確認

STEP1-2 (232,64,64,1)の配列をあらかじめ作成

●中身が0の配列を作成する (232枚画像データを64×64の白黒で読み込むため)

STEP1-3 画像ファイルの読み込みと配列への代入

● 画像ファイルを順に読み込みSTEP1-2で作成した配列に代入(Covid19=1, Healthy=0)

STEP1-4 x_train(特徴量)とy_train(正解)を作成

- STEP1-3の配列をランダムにシャッフルして、x_train(特徴量データ)とy_train(正解 データ)を作成
- x_trainは(232,64,64,1)、y_trainは(232,1)の配列構造をとる

前処理の手順

STEP1-1	•	この後の学習で配列データを使うが、今は前半が正解0の健康な肺のx線写真、
● Health		後半が正解1のcovid19肺炎のx線写真の並びになっている
●画像フ	•	この後モデルの中でvalidation_splitをすることになるが、
STEP1-2		train_test_splitと違い、自動ではシャッフルされないため、後ろ側の
●中身が		データがvalidationデータになる
STEP1-3	•	validationデータが全て正解値1のデータになると予測ができないので、あ
●画像フ		らかじめ並び替えておく必要がある

STEP1-4 x_train(特徴量)とy_train(正解)を作成

- <u>STEP1-3の配列をランダムにシャッフルして、x_train(特徴量データ)とy_train(正解</u> データ)を作成
- x_trainは(232,64,64,1)、y_trainは(232,1)の配列構造をとる



```
      STEP0:事前準備

      STEP1:データの用意と前処理

      STEP2:学習モデルの選択

      STEP3:データを入れて学習

      STEP4:学習結果の図示

      STEP5:モデルの評価

      STEP6:予測
```

```
print(num_list)
```

```
[ 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
...
```

219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231]

● np.arange() 関数: 「0~引数に入れた数字」の1次元の配列を作る

「num_all」は232なので、「num_list = np.arange(num_all)」を出力した結果 は、0から231までの連続した整数の要素からなる配列になる





深層学習 (画像の分類)					STEP0 : STEP1 :	:事前準備 :データの用意と前処理 : 党羽エデルの選択	
STEP1-4 x_train(特徴量)とy_train(正解)を作成]	STEP2 STEP3	・子首モナルの選択 :データを入れて学習 ・学習結果の図示		
コード18-19 imagas tampとlabols tampの配列をシャッフル					STEP5 STEP6	: 手首相朱の固永 : モデルの評価 : 予測	
		27:		r r 1 1			
	<pre>x_train = images_temp[num_list]</pre>		[0]	[1]			
	<pre>y train = labels temp[num list]</pre>		[0]	[1]			
	print(labels_temp[0:10])		[0]	[1]			
print(y	print(100010_00101)		[0]	[1]			
	print(y_train[0:10])		[0]	[0]			
	<pre>print(x_train.shape)</pre>		[0]	[0]	(232	2, 64, 64, 1)	
	<pre>print(y train.shape)</pre>		[0]	[1]	(232	2, 1)	
L			[0]]	[0]]	•		

numpy配列では、インデックスにリスト形式で順番を指定すると、その順番で 値を並べ替える

コード18-17で作成した0から231までのランダムな数字の列であるnum_list をインデックスにして、x_trainとy_trainのデータをシャッフルしている

前処理の手順

STEP1-1 画像ファイル名を取得

- ●HealthyとCovid19のフォルダからファイル名を取得して配列にして変数に代入
- ●画像ファイル数が116枚ずつ(HealthyとCovid19)で計232枚であることの確認

STEP1-2 (232,64,64,1)の配列をあらかじめ作成

●中身が0の配列を作成する (232枚画像データを64×64の白黒で読み込むため)

STEP1-3 画像ファイルの読み込みと配列への代入

● 画像ファイルを順に読み込みSTEP1-2で作成した配列に代入(Covid19=1, Healthy=0)

STEP1-4 x_train(特徴量)とy_train(正解)を作成

 ● STEP1-3の配列をランダムにシャッフルして、x_train(特徴量データ)とy_train(正解デー タ)を作成

● x_trainは(232,64,64,1)、y_trainは(232,1)の配列構造をとる

x_train

y_train



array([[1], [[0.02745098], [[[[0.16862746], [1], [1], [0.18431373], [0.1882353], [1], [0.47843137], [0.2], [1], [1], ..., ..., [1], [0.81960785], [0.03529412], [1], [0], [0.80000001], [0.01568628], [1], [0.78431374]]]] [0.01176471]] [1], [1], [0], (232, 1) (232, 64, 64, 1)肺炎が1、健康が0 深層学習 (画像の分類) 画像データを深層学習に利用するには、データの前処理が必要 **STEP1-1** 画像ファイル名を取得 **STEP1-2** (232,64,64,1)の配列をあらかじめ作成 **STEP1-3** 画像ファイルの読み込みと配列への代入 STEP1-4 x train(特徴量)とy train(正解)を作成



深層学習 (画像の分類) のコードまとめ



演習18:課題

Webclassで課題を提出してください。締め切りは2024/02/15 23:59まで

画像データの前処理について正しい選択肢を選んでください

問1:STEP1-3で img_to_array(file_img)/255 で255で割る作業を何ですか?

- 1.正規化
- 2.標準化
- 3.量子化
- 4.二值化

問2:STEP1-4で、STEP1-3で作成した配列をシャッフルしてからx_trainとy_train を作成する理由はなんですか?

- 1.過学習を抑制するため
- 2.学習の速度を上げるため
- 3.データセットの偏りを防ぐため
- 4.計算負荷を軽減させるため

授業準備:Webclassからコードをダウンロードし、 Google colaboratoryで開いておいてください

演習授業中の質問対応について


医療とAI・ビッグデータ入門 演習19

深層学習(画像データ)3

●今までは教師あり機械学習の基礎を実行してきた

●演習15-20では深層学習を実行する

15-16で深層学習の基礎と乳がんデータの分類
17-19で画像の分類を深層学習で行う
20 機械学習・深層学習の演習

医療分野のAIとして、画像診断支援が非常に重要なトピック 今回から3回で肺のレントゲン画像を用いて、covid19肺炎かど うかを分類する深層学習を行う



肺のレントゲン画像で深層学習を行いCovid19肺炎かどうかを予測する



深層学習 (画像の分類)



Covid19肺炎





特徴量として予測を行う

画像データのそれぞれのピクセルの輝度を





深層学習 (画像の分類)

深層学習 (画像の分類)のコードまとめ



深層学習のコードの流れ



深層学習 (画像の分類) 画像データを深層学習に利用するには、データの前処理が必要 **STEP1-1** 画像ファイル名を取得 **STEP1-2** (232,64,64,1)の配列をあらかじめ作成 **STEP1-3** 画像ファイルの読み込みと配列への代入 STEP1-4 x train(特徴量)とy train(正解)を作成





深層学習 (画像の分類)

今回は画像を 64×64 = 4096ピク セルで読み込む



入力層には各マスの色情報の数値(=変数)を入力する

演習19で作成する学習モデル





それぞれの層のニューロン数を指定

ニューラルネットワークとは



①一定量のデータの予測結果を算出する

②正解と予測結果がどれくらい異なっているかという誤差を計算する ③誤差が小さくなるように重みとバイアスを変える

を何度も繰り返すことで、誤差を減らしていき精度を高める





STEP1:前回からの続き

STEPO:事前準備 STEP1:データの用意と前処理 STEP2:学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:モデルの評価 STEP5:予測

前回の続きのため、 コード19-1~コード19-10を実行してください





コード19-11 ランダムシード値を設定

set_random_seed(0)

tf.config.experimental.enable_op_determinism()

- この後の機械学習で使うkerasモデルのランダムシード値を設定する
- モデルを決定的(同じように動くように規定)にする



```
深層学習 (画像の分類)
```

STEP2:学習モデルの選択

コード19-12 モデルの設計

```
model = Sequential()
```

```
model.add(Flatten(input_shape=(64,64,1)))
model.add(Dense(512, activation ='relu'))
model.add(Dense(256, activation ='relu'))
model.add(Dense(128, activation ='relu'))
model.add(Dense(1, activation ='sigmoid'))
```

```
model.compile(loss='binary_crossentropy',
```

```
optimizer='Adam',
```

```
metrics =['accuracy'])
```

```
model.summary()
```

```
STEPO:事前準備
STEP1:データの用意と前処理
STEP2:学習モデルの選択
STEP3:データを入れて学習
STEP4:モデルの評価
STEP5:予測
```

Model: "sequential"

Layer (type)	Output Shape	Param #		
flatten (Flatten)	(None, 4096)	0		
dense (Dense)	(None, 512)	2097664		
dense_1 (Dense)	(None, 256)	131328		
dense_2 (Dense)	(None, 128)	32896		
dense_3 (Dense)	(None, 1)	129		
Total params: 2262017 (8.63 MB) Trainable params: 2262017 (8.63 MB) Non-trainable params: 0 (0.00 Byte)				



STEP2:学習モデルの選択

結果は後で説明

Model: "sequential"

STEPO:事前準備
STEP1:データの用意と前処理
STEP2:学習モデルの選択
STEP3:データを入れて学習
STEP4:モデルの評価
STEP5:予測

Layer (type)	Output Shape	Param #	
flatten (Flatten)	(None, 4096)	0	
dense (Dense)	(None, 512)	2097664	
dense_1 (Dense)	(None, 256)	131328	
dense_2 (Dense)	(None, 128)	32896	
dense_3 (Dense)	(None, 1)	129	

Total params: 2262017 (8.63 MB) Trainable params: 2262017 (8.63 MB) Non-trainable params: 0 (0.00 Byte) (a) ReLU関数

(b) sigmoid関数



深層学習 (画像の分類)

STEP2:学習モデルの選択

STEPO:事前準備
STEP1:データの用意と前処理
STEP2:学習モデルの選択
STEP3:データを入れて学習
STEP4:モデルの評価
STEP5:予測

深層学習 (画像の分類)	STEPO:事前準備 STEP1:データの用意と前処理
STEP2:学習モデルの選択	STEP2:学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:モデルの評価
<pre>model = Sequential()</pre>	STEP5:予測
<pre>model.add(Flatten(input_shape=(64,64,1)))</pre>	
<pre>model.add(Dense(512, activation ='relu'))</pre>	
<pre>model.add(Dense(256, activation ='relu'))</pre>	
<pre>model.add(Dense(128, activation ='relu'))</pre>	
<pre>model_add(Dense(1, activation =sigmoid'))</pre>	
<pre>model.compile(loss='binary crossentropy',</pre>	
optimizer='Adam',	
<pre>metrics =['accuracy'])</pre>	
model.summary()	

● 最初に Sequential クラスでmodel インスタンスを作成する

(*LinearRegressionやRandomForestClassifierなどのモデルと同じ)

この後ニューラルネットワークを入力層から順番に設計できるようになる

深層学習 (画像の分類) STEP2:学習モデルの選択 model = Sequential() model.add(Flatten(input shape=(64,64,1))) model.add(Derse(512, activation ='relu')) model.add(Dense(256, activation ='relu')) model.add(Dense(128, activation ='relu')) model.add(Dense(1, activation = sigmoid')) model.compile(loss='binary crossentropy', optimizer='Adam' , hetrics =['accuracy']) model.summary()

STEPO:事前準備 STEP1:データの用意と前処理 STEP2:学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:モデルの評価 STEP5:予測

```
    (モデル名).add()で中間層の設定を行う
(64,64,1)→(4096,)
    Flatten(input_shape=(多次元配列))
    *Flatten():多次元の配列を1次元に変換する関数
今回は64×64×1=4096の1次元配列に変換
```

深層学習 (画像の分類)

STEP2:学習モデルの選択

```
model = Sequential()
model.add(Flatten(input shape=(64,64,1)))
model.add(Dense(512, activation ='relu'))
model.add(Dense(256, activation ='relu'))
model add(Dense(128, activation ='relu'))
model.add(Dense(1, activation = sigmoid'))
model.compile(loss='binary crossentropy',
              optimizer='Adam',
              metrics =['accuracy'])
model.sumpary()
```

STEPO:事前準備 STEP1:データの用意と前処理 STEP2:学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:モデルの評価 STEP5:予測





model.add(Dense(1, activation =sigmoid'))
model.compile(loss='binary crossentropy',

model.summary()

optimizer='Adam',

metrics =['accuracy'])



*Denceは「全結合」(前のニューロンと後ろのニューロンを全て接続する)



深層学習 (画像の分類)

STEP2:学習モデルの選択



深層学習 (画像の分類)

STEP2:学習モデルの選択

STEPO:事前準備 STEP1:データの用意と前処理 STEP2:学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:モデルの評価 STEP5:予測



ReLU関数

```
    (モデル名).add()で<u>3層目の中間層の設定を行う</u>
    Dense(次の層のニューロンの数, activation = 活性化関数)
```



```
model.summary()
```









深層学習 (画像の分類)	STEPO:事前準備 STEP1:データの用意と前処理		
STEP2:学習モデルの選択	STEP2:学習モアルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:モデルの評価		
<pre>model = Sequential() model.add(Flatten(input_shape=(64,64,1))) model.add(Dense(512, activation ='relu')) model.add(Dense(256, activation ='relu')) model.add(Dense(128, activation ='relu')) model.add(Dense(1, activation =sigmoid')) model.compile(loss='binary crossentropy',</pre>			
optimizer='Adam',	Model: "sequential"		
<u>metrics =['accuracy']</u>	Layer (type)	Output Shape	Param #
<pre>model.summary()</pre>	flatten (Flatten)	(None, 4096)	0
	dense (Dense)	(None, 512)	2097664
	dense_1 (Dense)	(None, 256)	131328
	dense_2 (Dense)	(None, 128)	32896
● 構築したモデルのまとめが出力される	dense_3 (Dense)	(None, 1)	129
	Total params: 2262	======================================	

Trainable params: 2262017 (8.63 MB) Non-trainable params: 0 (0.00 Byte)



STEP2:学習モデルの選択

STEPO:事前準備
STEP1:データの用意と前処理
STEP2:学習モデルの選択
STEP3:データを入れて学習
STEP4:モデルの評価
STEP5:予測

Model: "sequential"

Layer (type)	Output Shape	Param #	
flatten (Flatten)	(None, 4096)	0	64×64×1 = 4096個の1次元配列
dense (Dense)	(None, 512)	2097664	山間層の設定・
dense_1 (Dense)	(None, 256)	131328	ー 「前着の設定」 (input4096+バイアス1)×512個
dense_2 (Dense)	(None, 128)	32896	= 2,097,664個のパラメータ
dense_3 (Dense)	(None, 1)	129	
Total params: 2262 Trainable params: 2 Non-trainable param	017 (8.63 MB) 262017 (8.63 MB) is: 0 (0.00 Byte)	2,097,66 =2,262,0	4 + 131,328 + 32,896+129)17個のパラメータ Colal



<pre>result = model.fit(x_train, y_train,</pre>
$batch_size = 32$,
epochs = 100 ,
<pre>validation_split = 0.2</pre>

- (モデル名).fit(x, y)で学習させ、resultに学習結果を入れる
- 引数batch_size=32で「32組ずつデータを取り出して損失を計算し、重みとバイアス を更新しなさい」という指示
- **引数**epochs=でエポック数を指定する(全てのデータを使い尽くすことを1エポック)
- 引数validatin_split=で任意の割合で分割して学習を行う(*学習用のデータは232 組あり186組を学習用、46枚を検証用に分割して学習を行う)

深層学習 (画像の分類)

- batch size = 32:学習用のデータを用いて、32枚ずつデータを抽出して学習を行う
- epochs =100:全体のデータを100回使って学習を行う
- validation_split = 0.2:学習データの2割を検証用に分割して評価する



深層学習 (画像の分類)	STEPO:事前準備 STEP1:データの用意と前処理 STEP2:学習モデルの選択
STEP3:データを入れて学習	STEP3:データを入れて学習 STEP4:モデルの評価
	STEP5:予測
<pre>result = model.fit(x_train, y_train,</pre>	
batch size = 32,	

学習用データでの結果検証用データでの結果

cola

epochs = 100,

validation split = 0.2)

186枚から32枚ずつ(6回)



plt.show()



- plt.plot(x,y)で各点をつなぐ線を描ける
- yは結果の'accuracy'と'val_accuracy'を選択
- xは指定していないとデータ数(100回)
- plt.legend()で凡例を表示する
- plt.show()で図を表示する





```
plt.plot(result.history['val loss'], label='val loss')
```

plt.legend()

plt.show()



- plt.plot(x,y)で各点をつなぐ線を描ける
- vは結果の'loss'と'val loss'を選択
- xは指定していないとデータ数(100回)
- plt.legend()で凡例を表示する
- plt.show()で図を表示する





精度が右肩上がりに上がっていない

34

ろ増加しており精度が悪くなっている

過学習を抑制する



Dropout

過学習を防ぐための対策の1つで、特定の層の出力をランダムに0にする手法 局所特徴が過剰に評価されてしまうのを防ぎ、モデルの精度を向上させる


深層学習 (画像の分類)

STEP2:学習モデルの選択

コード19-16 ドロップアウトを加えて過学習を防ぐ

```
model d = Sequential()
model d.add(Flatten(input shape = (64,64,1)))
model d.add(Dense(512, activation ='relu'))
model d.add(Dropout(0.5))
model d.add(Dense(256, activation ='relu'))
model d.add(Dropout(0.5))
model d.add(Dense(128, activation ='relu'))
model d.add(Dense(1, activation ='sigmoid'))
model d.compile(loss = 'binary crossentropy'
                optimizer = 'Adam',
                metrics = ['accuracy'])
model d.summary()
```

STEPO:事前準備 STEP1:データの用意と前処理 STEP2:学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:モデルの評価 STEP5:予測

Model: "sequential"

Layer (type)	Output Shape	Param #
flatten (Flatten)	(None, 4096)	0
dense (Dense)	(None, 512)	2097664
dense_1 (Dense)	(None, 256)	131328
dense_2 (Dense)	(None, 128)	32896
dense_3 (Dense)	(None, 1)	129
Total params: 22620 Trainable params: 22 Non-trainable params	117 (8.63 MB) 62017 (8.63 MB) 5: 0 (0.00 Byte)	

深層学習 (画像の分類)

STEP2:学習モデルの選択

```
model d = Sequential()
model d.add(Flatten(input shape = (64,64,1)))
model d.add(Dense(512, activation ='relu'))
model d.add(Dropout(0.5))
model d.add(Dense(256, activation ='relu'))
model d.add(Dropout(0.5))
model d.add(Dense(128, activation ='relu'))
model d.add(Dense(1, activation ='sigmoid'))
model d.compile(loss = 'binary crossentropy',
                optimizer = 'Adam',
                metrics = ['accuracy'])
model d.summary()
```

```
STEP0:事前準備
STEP1:データの用意と前処理
STEP2:学習モデルの選択
STEP3:データを入れて学習
STEP4:モデルの評価
STEP5:予測
```

中間層の1層目と2層目の間に Dropoutを追加

中間層の2層目と3層目の間に Dropoutを追加

Dropout(0.5): 50%の出力値が0になる



STEP2:学習モデルの選択

Model: "sequential_1"

Layer (type)	Output Shape	Param #	
flatten_1 (Flatten)	(None, 4096)	0	
dense_4 (Dense)	(None, 512)	2097664	
dropout (Dropout)	(None, 512)	0	
dense_5 (Dense)	(None, 256)	131328	Dropoutができている
dropout_1 (Dropout) (None, 256)	0	
dense_6 (Dense)	(None, 128)	32896	
dense_7 (Dense)	(None, 1)	129	

Total params: 2262017 (8.63 MB)
Trainable params: 2262017 (8.63 MB)
Non-trainable params: 0 (0.00 Byte)

2,097,664 + 131,328 + 32,896+129 =2,262,017個のパラメータ



Dropout以外は同じ

STEPO:事前準備

STEP5:予測

STEP1:データの用意と前処理 STEP2:学習モデルの選択

STEP3:データを入れて学習

STEP4:モデルの評価



<pre>result_d = model_d.fit(x_train, y_train,</pre>
$batch_size = 32$,
epochs = 100,
<pre>validation_split = 0.2)</pre>

- (モデル名).fit(x, y)で学習させ、result_dに学習結果を入れる
- 引数batch_size=32で「32組ずつデータを取り出して損失を計算し、重みとバイアス を更新しなさい」という指示
- **引数**epochs=でエポック数を指定する(全てのデータを使い尽くすことを1エポック)
- 引数validatin_split=で任意の割合で分割して学習を行う(*学習用のデータは232 組あり186組を学習用、46枚を検証用に分割して学習を行う)

```
STEPO:事前準備
深層学習 (画像の分類)
                                              STEP1:データの用意と前処理
                                              STEP2: 学習モデルの選択
STEP4:モデルの評価
                                              STEP3:データを入れて学習
                                              STEP4:モデルの評価
                                              STEP5:予測
コード19-18 ドロップアウトを加えたモデルの学習過程の図示
  plt.plot(result d.history['accuracy'], label = 'accuracy')
  plt.plot(result d.history['val accuracy'],
           label = 'val accuracy')
  plt.legend()
  plt.show()
  plt.plot(result d.history['loss'], label = 'loss')
  plt.plot(result d.history['val loss'], label = 'val loss')
  plt.legend()
  plt.show()
```



学習用データの結果(accuracy): 正解率が増加し、精度が上がっている

検証用データの結果(val_accuracy): 正解率が増加し、精度が上がっている 学習用データの結果(loss): 損失が減少し、精度が上がっている

検証用データの結果(val_loss):損失が減少し、精度が上がっている







検証用データでは精度が悪い

検証用データでも学習データと似たような 性能になっている





深層学習のコードの流れ





新たな画像で分類を試してみよう





Covid.jpg

NORMAL.jpg

学習モデルに入れたデータx_train, y_trainに含まれていない画 像データ(covid.jpgとNORMAL.jpg)で分類を予測する



● covid.jpgの画像データ(Covid19肺炎のx線写真)を読み込み、前処
 理でしたことと同じデータ構造にする





STEP5:予測

STEPO:事前準備 STEP1:データの用意と前処理 STEP2:学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:モデルの評価 STEP5:予測

コード19-20 新たな画像での分類(covid.jpg)

print(model_d.predict(check))

機械学習と同様に (モデル名).predict()で予測値が出力される

1/1 [=====] - 0s 104ms/step
[[0.9668271]]

この画像がcovid19肺炎である確率

*covid19肺炎のデータを読み込んだので、予測としては正解





STEP5:予測

STEPO:事前準備 STEP1:データの用意と前処理 STEP2:学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:モデルの評価 STEP5:予測

コード19-21 新たな画像での分類(NORMAL.jpg)

● NORMAL.jpgの画像データ(健康な肺のx線写真)を読み込み、前処理 でしたことと同じデータ構造にする



STEP5:予測

STEPO:事前準備 STEP1:データの用意と前処理 STEP2:学習モデルの選択 STEP3:データを入れて学習 STEP4:モデルの評価 STEP5:予測

コード19-22 新たな画像での分類 (NORMAL.jpg)

print(model_d.predict(check))

機械学習と同様に (モデル名).predict()で予測値が出力される



この画像がcovid19肺炎である確率

*健康データを読み込んだので、予測としては<u>正解</u>



演習19 課題

Webclassで課題を提出してください。締め切りは2024/02/15 23:59まで

model_dで学習するときのepochs数を300にした場合の最終的な val_accuracyとval_lossを回答してください。

CO 🛆 演習19_20240203.ip	ynb 🛧	
ファイル 編集 表示 挿入	ランタイム ツール ヘルプ <u>すべての</u>	変更を保存しました
∃ ファイル	すべてのセルを実行	육/Ctrl+F9
	より前のセルを実行	郑/Ctrl+F8
	現在のセルを実行	육/Ctrl+Enter
{ <i>x</i> } MACOSX	選択範囲を実行	郑/Ctrl+Shift+Enter
c→ drive	以降のセルを実行	第/Ctrl+F10 2
 images sample_data 	実行を中断	육/Ctrl+M I
	セッションを再起動する	郑/Ctrl+M .
	セッションを再起動してすべて実行する	3
	ランタイムを接続解除して削除]
	ランタイムのタイプを変更]
	セッションの管理]
	リソースを表示	1
	ランタイムログの表示	

- コード19-17のmodel_dで学習するときのepochs数を300 に変更
- コード19-16~コード19-17を実行する
- 学習の300回目のval_accuracyとval_lossの値を回答

授業準備:Webclassからコードをダウンロードし、 Google colaboratoryで開いておいてください

演習授業中の質問対応について

2 Zoom ミーディング	- 🗆 X
[*] 演習授業中の質問をチューターの先生が対応させていただきます。	Ξ- Γ γΛ/J Γ μγΝ C ×
演習にエラーが出たなど問 題があったらリアクション の 挙手 を押してください。 に送信して	を入力して、「 全員 」宛て てください。
X Miho Ishimaru X Miho Ishimaru	ッセージは誰に表示されますか? 宛先 全見 マ ここにメッセージを入力します ひ ② C C, マ … ア

1

医療とAI・ビッグデータ入門 演習20

まとめの演習



Webclassで課題を提出してください。締め切りは2024/02/15 23:59まで

(必修課題) Heart Attack dataset を使い、分類を行なってください

- 使用するモデルは演習10-演習14で取り扱った、LogisticRegression, SVC,
 DecisionTreeClasifier, RandomForestClasifierのうち、どれか一つを選択してくだ さい。
- webclassからkadai_ML.ipynbをダウンロードし、空欄となっているコード5~コード8に コードを書き、実行できることを確認してください。
- kadai_ML_(学生番号).ipynbに名前を変更し、webclassで提出してください。

(発展課題)全員が提出する必要はありません。提出された場合は成績に加点します。 皮膚がんの画像データを使って、分類を行なってください。

- ニューラルネットワークで自分でモデルを設計してください。
- webclassからkadai_DL.ipynbをダウンロードし、空欄となっているコード6~コード8にコードを書き、実行できることを確認してください。
- kadai_DL_(学生番号).ipynbをwebclssで提出してください。



Heart Attack dataset を使い、分類を行なってください

コード3

heart.csvをGoogle Driveにアップロードして、pd.read_csv()で読み込む

df = pd.read_csv('/content/drive/MyDrive/heart.csv')
df

* Google Driveの MyDrive直下にheart.csvをおいている必要があることに注意

	age	sex	ср	trtbps	chol	fbs	restecg	thalachh	exng	oldpeak	slp	caa	thall	output
0	63	1	3	145	233	1	0	150	0	2.3	0	0	1	1
1	37	1	2	130	250	0	1	187	0	3.5	0	0	2	1
2	41	0	1	130	204	0	0	172	0	1.4	2	0	2	1
3	56	1	1	120	236	0	1	178	0	0.8	2	0	2	1
4	57	0	0	120	354	0	1	163	1	0.6	2	0	2	1
298	57	0	0	140	241	0	1	123	1	0.2	1	0	3	0
299	45	1	3	110	264	0	1	132	0	1.2	1	0	3	0
300	68	1	0	144	193	1	1	141	0	3.4	1	2	3	0
301	57	1	0	130	131	0	1	115	1	1.2	1	1	3	0
302	57	0	1	130	236	0	0	174	0	0.0	1	1	2	0

演習20課題

Heart Attack dataset を使い、分類を行なってください

	age	sex	ср	trtbps	chol	fbs	restecg	thalachh	exng	oldpeak	slp	caa	thall	output
0	63	1	3	145	233	1	0	150	0	2.3	0	0	1	1
1	37	1	2	130	250	0	1	187	0	3.5	0	0	2	1
2	41	0	1	130	204	0	0	172	0	1.4	2	0	2	1
3	56	1	1	120	236	0	1	178	0	0.8	2	0	2	1
4	57	0	0	120	354	0	1	163	1	0.6	2	0	2	1
298	57	0	0	140	241	0	1	123	1	0.2	1	0	3	0
299	45	1	3	110	264	0	1	132	0	1.2	1	0	3	0
300	68	1	0	144	193	1	1	141	0	3.4	1	2	3	0
301	57	1	0	130	131	0	1	115	1	1.2	1	1	3	0
302	57	0	1	130	236	0	0	174	0	0.0	1	1	2	0

303 rows × 14 columns - 303行 × 14列(13個の特徴量+1個の正解値)



Heart Attack dataset を使い、分類を行なってください

age sex cp trtbps chol fbs restecg thalachh exng oldpeak slp caa thall output

age:年齡 sex:件別 cp:Chest pain type (0=典型的狭心症、1=非定型狭心症、2=非狭心症性疼痛、3=無症状) trtbps:安静時血圧 chol:コレステロール値 fbs:空腹時血糖 120mmHg/d1以上の時1、以下の時0 restecg:安静時心電図結果 $\sim 0 =$ 正常、1 = ST - T波正常、2 =左室肥大 thalachh:最大心拍数 exng: 運動誘発狭心症~1=あり、0=なし oldpeak:安静時に比べて運動により誘発されるST低下 slp:運動ピークsrセグメントの傾き: 0:上り勾配、1:平坦、2:下り勾配 caa:主要血管の数(0-3) thall:タリウム負荷試験: 0:正常0、1:正常1、2:固定欠損、3:可逆欠損 output:ターゲット変数(1=心臓発作の可能性が高い)

演習20課題

x_data

Heart Attack dataset を使い、分類を行なってください

コード4 y_data(正解値データ)、x_data(特徴量データ)を作成する

```
y_data = df.iloc[:, 13]
x data = df.iloc[:, 0:13]
```

y_data

0 1 2 3 4	
298 299	
300 301 302	
Nam	utput, Length: 303, dtype: int64

y_data.shape

(303,)

	age	sex	ср	trtbps	chol	fbs	restecg	thalachh	exng	oldpeak	slp	caa	thall
0	63	1	3	145	233	1	0	150	0	2.3	0	0	1
1	37	1	2	130	250	0	1	187	0	3.5	0	0	2
2	41	0	1	130	204	0	0	172	0	1.4	2	0	2
3	56	1	1	120	236	0	1	178	0	0.8	2	0	2
4	57	0	0	120	354	0	1	163	1	0.6	2	0	2
298	57	0	0	140	241	0	1	123	1	0.2	1	0	3
299	45	1	3	110	264	0	1	132	0	1.2	1	0	3
300	68	1	0	144	193	1	1	141	0	3.4	1	2	3
301	57	1	0	130	131	0	1	115	1	1.2	1	1	3
302	57	0	1	130	236	0	0	174	0	0.0	1	1	2
303 ro	ws x	13 c	olum	ins									

x_data.shape

(303, 13)



Heart Attack dataset を使い、分類を行なってください

kadai_ML.ipynbのコード5~8 に以下のコードを書いて実行してください。

コード5: train_test_split()で学習データと検証データに分割してください

コード6:学習モデルを選択してください(LogisticRegression, SVC,

DecisionTreeClasifier, RandomForestClasifierのうちどれか一つ) *LogisticRegressionで行う場合には、収束しないエラーが起こることがあり、その場合は、

(モデル名)= LogisticRegression(max_iter=1000)でインスタンス化を行なってください。

コード7:学習データを入れて、学習を行なってください

コード8:モデルの評価を行なってください(正解率、AUC、precisionなど好きなもの一つ以上)



1) images_skin_cancer.zipをGoogle Driveにアップロードしてください。

良性腫瘍(正解値:0)



悪性腫瘍 (正解值:1)



1440枚のデータ



出典(https://www.kaggle.com/datasets/fanconic/skin-cancer-malignant-vs-benign)



(発展課題) 皮膚がんの画像データを使って、分類を行なってください。 コード1 : Google Driveにマウントする

from google.colab import drive

drive.mount('/content/drive', force_remount=True)

コード2: images_skin_cancer.zip を解凍する

!unzip '/content/drive/MyDrive/images_skin_cancer.zip'

* Google Driveの MyDrive直下にimages_skin_caner.zipをおいている必要があることに注意



- コード4:前処理(このまま全部実行してください)
 - ・ 画像データを読み込み、x_trainとy_trainを作成する
 - 今回はカラーモード、サイズは64×64で読み込む



コード5 ランダムシード値の設定

set_random_seed(0)



kadai_DL.ipynbのコード6~8に以下のコードを書いて実行してください。

コード6 モデルを設計してください

(中間層は2層以上でニューラルネットワークで作成してください)

コード7 学習をしてください(モデル名.fit()) (batch_size =, epochs =, validation_split =の値を自分で決める) *かなり時間がかかるので、epochs数は10~20ぐらいから始めるのをお勧め

コード8 accuracyとval_accuracyの学習過程の図示、lossとval_lossの学習過程の図示

演習を始める前に2つアナウンス

医療とAI・ビッグデータ応用のご案内

「医療とAI・ビッグデータ応用」の履修について

- ■開講時期:前期 2024年度は4月25日~7月18日の予定
- ■単位数:1単位
- ■対象学科
 - 必修科目 :医学科2年、歯学科2年
 - 選択必修科目:保健衛生学科·検查技術学専攻2年~
 - 自由科目 : 口腔保健学科·口腔保健衛生学専攻/口腔保健工学専攻 2年~ 保健衛生学科·看護学専攻 2年~

■履修方法:

<u>必修科目以外については、4月初旬に各教務係から案内があります。</u> 希望者は申し込みをしてください。

演習を始める前に2つアナウンス



授業評価アンケートについて

